

科目番号	CB102				
科目名	森林計測学 実習				
担当教員	倉橋路枝(森林大学校専任教員)				
科目区分	森林計画	人材養成の方針	即戦力	リーダー	地域貢献
対象学年	1年		授業形態	実習	
開講時期	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	単位数
授業時間数	15	コマ		(30 単位時間)	
実務経験のある教員による授業科目	○	左の実務経験の内容	森林調査(5年以上)		
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	—	左の実務経験の内容	—		
実務経験を活かした授業内容	森林資源モニタリング調査(現森林生態系多様性基礎調査)など、わが国で標準的に実施されている実務的な森林調査の方法や調査に当たったの留意事項など、実務経験に基づき、実践的な授業を行う。				

目的	森林管理の基礎的情報である毎木調査を行うのに必要な知識を修得する。	
概要	森林計測学とあわせ、単木及び森林全体の直径、樹高の測定方法から材積の求め方までを学ぶ。さらには森林調査で取得したデータや、森林簿や森林計画図などの基礎的データの利活用についても学ぶ。	
キーワード	①単木、樹高、材積の測定 ②森林資源の調査 ③樹幹解析 ④システム収穫表 ⑤資源情報の管理	
関連する科目	森林計測学、森林情報論、造林学、森林生態学	
到達目標	○	森林林業の即戦力として活躍するための実践的な技能の習得
		森林林業の次代のリーダーとなるための専門知識及び技術の習得
		多自然地域の振興や課題解決に貢献するための幅広い知識及び技術の習得
評価方法	提出物60%、態度25%、出席15%	

授業計画	テーマ	講義内容
1～4	立木の計測	・胸高直径、樹高を測定し、立木幹材積表から立木材積を求める ・測定器具(輪尺、直径巻尺、測竿、測高器など)の使用方法を習得し、それぞれの特徴を理解する。
5～6	林分調査	・標準地調査法による林分調査を実施
7	丸太の計測・樹幹解析	・末口直径、樹長を測定し、丸太材積を求める
8～11	林分調査	・毎木調査、簡易測定法の習得 ・調査結果の解析、密度管理図との照合などにより森林全体の材積を推定
12	樹幹解析	・樹幹解析図の作成、成長量の測定
13	システム収穫表の利用	Lycsによる収穫シミュレーションの実施
14	森林GISの利用	Webでの森林GISの操作
15	まとめ	実習のふりかえり

テキスト	必要な資料を配付します。
参考書	ニューフォレスターズガイド
関連する資格	森林情報士2級
備考	